

わたしにとっての「戦後」80年とは？

Peacedays2025

スタートアップ集会

日時：6月13日(金)18:30~20:30 (開場18:00)

会場：エルプラザ4F 中研修室 (札幌市北区北8西3)

参加費：一般500円 25歳以下無料

プログラム：リレートーク、ピースデイズ2025の呼びかけ

ことしは「戦後」80年 わたしたちは何をしてきたか 何をしていくか
さまざまな人々の「戦後」80年をリレートークでつなぎます。

「沖縄に『戦後』はない」 「ジェンダーの視点での戦争とは？」
「もう、戦争前夜では？」 「なぜ、核禁止条約を批准できないのか？」

小さな声や活動をつなげて社会のうねり、ピースデイズ2025にして
いきましょう。

主催：ピースデイズ2025実行委員会

連絡先：peacedays2025@gmail.com



ピースデイズ2025
ホームページ

わたしにとっての「戦後」80年とは？

Peacedays2025

「戦後」80年 PEACEDAYS2025

今年は、「戦後」80年です。

80年前、沖縄が戦場となり、広島と長崎に原爆が落とされ、日本各地も激しい空爆にさらされました。すべては日本がアジアの国々を侵略したことから始まりました。戦争は人々の命も暮らしも街も破壊しつくしたのです。

その反省に立ち、私たちは憲法で一人ひとりの命と人権を尊んで不戦を誓ったはずなのに、今の日本はどうでしょうか？私たちの生存の基盤となる医療や福祉、環境保護の空洞化をはかり、軍事拡大にひた走っています。琉球弧と呼ばれる奄美から与那国まで、軍事要塞化が急速に進み、北海道でも、次々と軍事利用のために港湾、空港が特定利用指定され、各地の弾薬庫も整備が進んでいます。日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞に背を向けるように、「核抑止論」に与しています。

一見、豊かにみえる社会では非正規労働者が増え、社会の分断や格差が一段と厳しさを増し、子どもの貧困率は7人に1人となっています。人々の不安を映すように差別やヘイトが民主主義や共生の倫理を脅かしています。

そしてロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区でのジェノサイド、軍部によるクーデターを契機に4年前から続くミャンマーの内戦など世界各地では人々を死に追いやる戦火がやみません。やっとの思いで日本に逃れ、難民認定申請した1万2373人（2024年）のうち、認定されたのはわずか190人でした。日本に迎えた人々の大半が、とても厳しい生活を強いられています。

私たちが目指す「平和で自由で平等な社会」は、いまだ途上です。私たち一人ひとりが再び戦争の加害者にも被害者にもならない決意を新たにして、声を上げ、行動すること。それは今を生きる私たちの責任です。

さまざまな市民団体やグループ、個人が、「戦後」80年を契機に日本社会のありようを考え、変える取り組みを企画しています。それらを連ねて「PEACEDAYS2025」と共通のロゴをつけてカレンダーで情報共有し、互いに応援し合いながら小さくても平和へのアクションを結んで社会のうねりにしていきたいと思います！

主 催：ピースデイズ2025実行委員会

連絡先： peacedays2025@gmail.com



ピースデイズ2025
ホームページ